

「教育特区の学校」を知ろう！

資格より英語より大切な 「命に火をつける教育」を



師友塾高等学校

理事長

おおごし としお
大越 俊夫 さん

2008年4月、広島県尾道市に広域通信制単位制高校の師友塾高等学校が開校します。「人間教育特区」に認定された同市に誕生する学校の、教育方針、指導目標はどういうものなのか。実践的な人間教育、人生教育を通じて、親も子も先生も一緒に学ぶことを目指す、師友塾塾長・同校理事長の大越俊夫さんに語っていただきました。

師友塾の新たな拠点 通信制高校が誕生

2008年4月に、広島県尾道市に師友塾高校という、広域通信制単位制高校を開校する予定になっています。その母体となるリバースアカデミー師友塾は、1975年に創立し、サポート校・高卒認定予備校・大学受験予備校として、今年で34年目を迎えました。現在、神戸校、東京校、淡路島の「チューリップの館」があり、約500人の生徒が学んでいます。これまで6500人以上の若者が元気に巣立っていきました。

今回の通信制高校の誕生で、新たな拠点がができるわけですが、中学3年生や転編入を考えている高校生、さらに不登校や引きこもりの子どもたちを全国から受け入れる予定です。その本校では集中スクーリングを行うほか、希望する生徒には、最短3カ月、最長3年の「長期滞在型プログラム」を実施します。尾道水道をはさんだ向島には、「文学の館」という、スクーリングの子どもたちの宿舎として、また師友塾高校生の寮として受け入れられる宿泊施設を準備しています。

教育の場にふさわしい 風光明媚な街・尾道

尾道は、私が生まれ、育った街です。もちろんそのための愛着もありますが、理屈抜きで風光明媚ないい街です。海あり山あり、食べ物もおいしい。古い街並みがずらっと並んで、戦争でも被害を受けていない。日本の心を体感するために、オリンピックの出陣を前に訪れる人が多い街だそうですね。この街を訪れると、「日本の国を背負っている」ということを実感できるそうです。また、尾道出身の映画監督・大林宣彦さんは、『転校生』をはじめ、ここを舞台にした映画を何本も制作していますし、文豪・志賀直哉や林芙美子ゆかりの地でもあります。

そして何より尾道は人がいいんです。高校の開校をもる手を挙げて歓迎してくれています。不登校児



師友塾高校の本校となる校舎

に対しても悪い感情を持っていません。「いい子が学校に行けなくなっている」と言ってくださいませ。

私は長年、高等教育の場としてふさわしいのは、この尾道だと考えていました。このたび、尾道市が「人間教育特区」として認定されたことで、夢が現実になることは、大きな喜びです。

人生は楽しいと体感させる場

そんな街で、私がやりたいこと。それは、「生きるということは本当に楽しい」ということを子どもたちに伝え、体感させてやりたいんです。それがファイナルゴールだと考えています。

例えば、不登校というのは学校に行けないだけでなく、生きることを否定しているんです。学校を辞めただけならいいんです。就職したり恋愛することができれば、でもそれさえもできない。息も絶え絶えで師友塾に来る子どもも多いんです。夢とか希望を語る以前の問題ですよ。生きることにときめかないんだから、命が薄くなっているのです。

そんな子たちに「どうしてここに来たの?」と聞くと、「インターネットでいろいろ調べてきました」と。ある匂いでここへ来る子が多い。そういう子は、間違いなく生きることに疲れ切っています。かわいそうに、生まれてまだ15、6年しかたっていないのに。それは、まわりの大人がときめいていないからですよ。大人も頑張るときめかなきゃ、と思いますね。私もときめいてやろうと、昨日も私のクラスであるヒューマニティセミナーを開き、145人の子が集まってくれました。初めての子が20人いて、そのうちの13、4人の子は最後まで聞いていました。その中には投薬を受けている子が7、8人いましたが、最後まで残ってくれました。

そういう子たちに何ができるかということです。資格を与えればいいのか、英語を教えればいいのか、そうじゃない。自分の人生を「生き切れ」ということですよ。生きて、「楽しいぞ、人生は!」ということをお伝えしたいんです。せっかく生まれてきたんだから。修行するなら別だけど、われら凡人は、楽しくなきゃいけないと思います。人生は楽しいと体感させる場にしたい、それが一番ですね。手を叩いて笑ったり、喜び合ったり、深夜まで語り明かしたり、ときには悔しさで涙を流したり……。そんなキラキラした青春を謳歌させてやりたいんです。

それがあって初めて、高校卒業の資格、英語の勉強なんです。そのためには、私たち大人が、生きるということはすばらしいということ、無理やりでも見せてやらないといけないと思います。私が34年、馬鹿みたいやってきたのは、そういうことです。

人間や人生について学び「根」を張る教育を

私は、木でいえば、「根」を張る教育をしたいと思っています。親御さんは「咲いた花」を見たがったり、「なった実」を取りたがりますが、私はその前に、人生を生き切るための基本となる根を張らせる、それに主眼をおきたいんです。

そのためのプログラムもいろいろと考えています。例えば、尾道にはお寺だけで44もあり、住職さんのお話を聞くだけでも勉強になります。さらに、「偉人伝講話」という内容で、二宮尊徳、福沢諭吉など、歴史的な人物にまつわる講話を校長が行い、人間について、人生について、深く学べるようにします。

私は、先生と生徒が対面して行う教育、対面教育が好きではないんです。親も子どもも一緒に学ぶ。先生だって、死ぬまで学ぶという姿勢。それをやっていきたいですね。ささやかながら私塾として34年やってきましたので、この経験をもとに、新しい高校をつくり上げていきたいと思っています。



郷愁を誘う坂道が情緒をかきたてる尾道の街